

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

殿

美建工業株式会社 尾道工場

広島県尾道市長者原1丁目220-17

TEL:0848-48-4503 FAX:0848-48-4502

配合計画者名 村上 靖典

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日, 9月21日～12月10日は標準配合. 左記以外の期間は備考欄に記述。
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ [°] 又はスランプ [°] フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
		普通	24	8	40
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	—		コンクリートの温度	— °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	— kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	— kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	— cm
	空気量	4.5 %			

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	—		
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm ³	—	Na ₂ Oeq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町横田産	A	モルタルバー法	5mm以下	2.65	2.54	2.57	3.0以下
	②	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石1505	愛媛県今治市大三島町肥海産	A	化学法	15～5	6.30	2.70	2.72	0.5±0.5
	②	砕石2010	愛媛県今治市大三島町肥海産	A	化学法	20～10	7.00	2.70	2.72	0.5±0.5
	③	砕石4020	広島県世羅郡世羅町小世羅産	A	モルタルバー法	40～20	7.90	2.60	2.61	0.5±0.5
混和剤①	製品名	チューポールEX60L		種類	AE減水剤(標準形I種)		Na ₂ Oeq %	1.4		
混和剤②		—			—			—		
細骨材の塩化物量	—		水の種類	上水道水・回収水(上澄み水)			目標スラッジ固形分率	— %		
回収骨材の使用法	細骨材	—	粗骨材	—		スラッジ水の使用法		—		

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
275	—	155	815	—	—	321	321	410	1.93	—
水セメント比		56.5 %		水結合材比		— %		細骨材率		44.6 %

備考

修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更。

夏期 6月11日～9月20日 +15～20% 冬期 12月11日～3月10日 -15～-10%

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

No. _____

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ°又はスランプ°フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項	軽量コンクリートの単位容積質量	—	kg/m ³	空気量	4.5 %
	コンクリートの温度	—	°C	混和材料の種類及び使用量	—
	呼び強度を保証する材齢	28	日	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	B B
	水セメント比の目標値の上限	60	%	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m ³
	単位水量の目標値の上限	—	kg/m ³	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下
	流動化後のスランプ増大量	—	cm		
変動係数	V	当工場の実績により			10.0 %
配合強度	m	$m = \frac{1.0 \times S_L}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 30.0$			30.0 N/mm ²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -19.90 + 28.20 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{28.20}{30.0 + 19.90} \times 100 = 56.5$			56.5 %
単位水量	W	当工場の実績により			155 kg/m ³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{155}{56.5} \times 100 = 275$			275 kg/m ³
	C _v	$C_v = C \div \text{密度} = 275 \div 3.04 = 90$			90 L/m ³
空気量	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$			45 L/m ³
骨材の絶対容積	V _a	$V_a = \text{設計容積} - (W + C_v + A) = 1000 - (155 + 90 + 45) = 710$			710 L/m ³
細骨材率	S/a	当工場の実績により			44.6 %
単位細骨材量	S _v	$S_v = V_a \times S/a(\%) = 710 \times 44.6(\%) = 317$			317 L/m ³
	S	$S = S_v \times \text{密度}(2.57) = 815$			815 kg/m ³
単位粗骨材量	G _v	$G_v = V_a - S_v = 710 - 317 = 393$			393 L/m ³
	G _{v1}	① $G_{v1} = G_v \times 30(\%) = 118$			118 L/m ³
	G _{v2}	② $G_{v2} = G_v \times 30(\%) = 118$			118 L/m ³
	G _{v3}	③ $G_{v3} = G_v \times 40(\%) = 157$			157 L/m ³
	G ₁	① $G_1 = G_{v1} \times \text{密度}(2.72) = 321$			321 kg/m ³
G ₂	② $G_2 = G_{v2} \times \text{密度}(2.72) = 321$			321 kg/m ³	
G ₃	③ $G_3 = G_{v3} \times \text{密度}(2.61) = 410$			410 kg/m ³	
単位混和剤量	A E	$A E = C \times \text{添加率}(\%) = 275 \times 0.7(\%) = 1.93$			1.93 kg/m ³

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
275	—	155	815	—	—	321	321	410	1.93	—
水セメント比		56.5 %		水結合材比		— %		細骨材率		44.6 %

備考